

ファッションショー「GIFUを着るPartⅢ 若人がGIFUを斬る」の実施

“Gifu wo kiru” (Part III) Fashion Show--On the cutting edge of fashion for
young people in Gifu

伊藤陽子 久保村里正

Yoko ITO Risei KUBOMURA

Abstract

This study reports on a fashion show held by Gifu City Women's College Fashion Design students in cooperation with Gifu Prefecture, Gifu City and Gifu Apparel Fashion Industry. The purpose of the fashion show is to promote new exciting fashion among young people in the Gifu area.

Students visited eleven apparel companies to select the Fashion products and lend them. They gathered and coordinated the costumes to construct the fashion show. The study tells in pictures and words of the preparation, challenges, and success of the fashion show.

Keywords : G I F Uを着る、産・官・学連携、アパレル産業、ファッションショー

はじめに

先稿の『岐阜地域に於けるアパレル産業の活性化と大学の地域貢献 ファッションショー「GIFUを着る」の実施を通して』ⁱでは、岐阜市立女子短期大学が主催として、2002年7月7日（日）に産・官・学の連携の試みとして実施した『ORIBEワールド・ファッションシリーズ 第1回オリジナル・ファッションショー「GIFUを着る」』を通して、大学による地域への貢献を論じた。

この「GIFUを着る」は単なるファッションショーではなく、岐阜市立女子短期大学が特色ある教育の取組として実施している「デザインを通じた地域との交流による教育」の一環として、大学の授業の中で正規のカリキュラムの中に位置づけて実施している。ファッションショーとしての「GIFUを着る」は、平成14年に初めて実施したが、第1回の頃より地域の企業・住民から非常に好評であり、今年で第3回を迎えるに至った。そして、その間には、この「GIFUを着る」を含めた取組が、文部科学省による、平成15年の新規事業として実施された「特色ある大学教育支援プログラム」に岐阜市立女子短期大学・生活デザイン学科が「デザインを通じた地域との交流による教育」を申請し、審査の結果、採択に至った。ⁱⁱ

そこで小論では、平成16年に実施した『「GIFUを着る」PartⅢ 若人がGIFUを斬る』について述べると共に、「デザインを

通じた地域との交流による教育」として今までに計3回、取り組んできたファッションショー「GIFUを着る」について、現在までの考察を行いたい。

I 研究背景

第1回目の「GIFUを着る」は、2002年4月11日に、岐阜県商工局・デザイン振興室・デザイン振興グループより、『—あなたが企画するオリジナル・ファッションショー「オリベワールド・ファッションシリーズ」として、岐阜市立女子短期大学生活デザイン学科に開催計画の依頼が寄せられたことに端を発している。その概要は、楽しみながら岐阜アパレルに親しんでもらえるファッションショーを、シリーズで開催しようとするものであり、今まで何度もファッションショーを行ってきた本学科の実績を評価しての依頼であったと考えられる。

その依頼に対して生活デザイン学科としては、「オリベワールド・ファッションシリーズ」のオリジナル・ファッションショーが、ただ単に「見せ物」として開催するだけではなく、ファッションショーを自分たちで企画し運営するグループ、ファッションショーに協賛する地元のアパレル企業、そして、そのファッションショーにモデルとして参加する人を募り、それぞれが連携をはかりながら、会場や必要な設備を岐阜県が支援するという企画という点に着目し、大学による地域貢献に取り

組む上で、非常に意義のある企画だと考えた。そこで生活デザイン学科では、専門性を鑑み、ファッションデザイン研究室の伊藤を中心に、本企画を実施するに至った。

そして第1回が開催された翌年度、2004年2月29日（日）に、「GIFUを着る」として第2回目のファッションショーとなる『「GIFUを着る」2nd四季』を実施した。そして2004年7月11日（日）に小論の主題となる『「GIFUを着る」PartⅢ 若人がGIFUを斬る』が開催されるに至った。

この今までの計3回、実施されたファッションショーは、全体のメインテーマとして「GIFUを着る」と定めており、3回を通して共通しているが、この3回のファッションショーは、開催時期による対応授業の違い、中心となる学生の経験の違い、その年その年の学生気質の違い、協賛企業側の社内体制の違いなどにより、企画を実施する上で、新たに計画をしなくてはならないことが非常に多かった。故に、それぞれを個別のファッションショーとして考えなくてはならず、前回のファッションショーを参考にして企画を進める事には、非常に難しいものがあった。また岐阜市立女子短期大学が短期大学である故に、学生が2年間で卒業してしまい、学生間での知識や技術の蓄積がなされないという構造的な問題もあった。

しかし、その様な問題がありながらも、ファッションショー「岐阜を着る」は、毎回、新しい研究テーマを設定しながら、3年間続けることができた。そして、その設定したテーマを毎年、計画を立て実行に移すことによって、毎年、新鮮で魅力的なショーを完成させることが出来たのだと思われる。

Ⅱ 目的

2002年4月11日に開催された、第1回の「GIFUを着る」は、ファッション産業を地場に持つ岐阜県、岐阜市（官）と生活デザイン学科の中にアパレルデザイン専攻を持つ岐阜市立女子短期大学（学）が地元のファッション産業企業（産）と連携し、授業の一環としてファッションショーを行う企画で、主な目的は、以下の3点であった。ⁱⁱⁱ

- ① 今回のファッションショーの企画を、産・官・学による連携と位置付け、公立短期大学としての地域貢献の実践的な試みとする。
- ② 学生が岐阜のアパレル業界へ訪問する過程で、岐阜のアパレル業界について学習を行う。又、地元のアパレル企業に対して、今後アパレル業界へと就職を希望している本学学生と送り出す大学についての理解を深める。
- ③ 学生が主体となってファッションショーを企画・運営する事によって、実践の中から学生の自主性や積極性を養う。

そして、第2回目からは、ORIBEファッションアカデミー・スタイリストスクール、ベルフォートアカデミー・オブ・ビュー

ティーの協力も得られ、より充実し、地元と協力しあう姿勢ができた。

しかし、今までのファッションショーは、学生主体で行っており、ファッションショーおよび実施した授業も、試みとして試行錯誤を重ねて行ってきた。そこで第3回目にあたる今回の「GIFUを着る PartⅢ 若人がGIFUを斬る」では、今までの学生の行うファッションショーから、本格的なファッションショーへの脱却を目的に、実施することにした。

今回の授業の中でファッションショーを行う目的として、以下の項目を設定した。

- ① 学生が岐阜県内のアパレル企業を訪問することによって、岐阜アパレル産業の仕組みと現状、企業、仕事内容を体験的に学ぶ。
- ② 学生が授業の中で、自主的にファッションショーを企画・運営する。
- ③ プロの指導を受けながら、実際に本格的なファッションショーを開催することによって、プロの仕事を経験する。
- ④ ファッションショーに使用するアパレル商品を岐阜県内の企業から借りることを通して、アパレル商品を知り、その管理、扱い方を知る。
- ⑤ 授業の一環として、受講している学生全員が、ファッションショーに参加・協力することによって、学生の企画・運営能力を養う。
- ⑥ ファッションの実施に向け企業側に協力して貰う過程で、岐阜市立女子短期大学の学生を企業に知って貰い、就職活動に生かす。

今回の第3回「GIFUを着る」では、以上のような目的をもって実施することとした。今回は第1回の「GIFUを着る」と同様、開催時期を7月としたため、昨年度の様にショーの準備を進めるための授業として、1年生の課題研究を充てることが出来なくなってしまった。そこで今回は伊藤の開講科目で生活デザイン学科アパレルデザイン専攻2年生の必修科目である「マーケティング演習」を中心に、実施の準備を進めることとなった。「マーケティング演習」の授業は、当初より地域での実践的なマーケティングの演習を視野に入れており、シラバスのなかでもテーマとして市場調査（岐阜アパレル産業の調査）・ファッションショーの実践（ファッションショーを企画、構成、実施）も入っていた。

今回の、第3回「GIFUを着る」に主として参加した学生は、平成16年度の前期に開講された「マーケティング演習」の受講学生の41名であった。そして更にファッションショーを進めるにあたって必要となってくる補助の学生を、アパレルデザイン専攻の1年生が必修の授業となっている「アパレルデザイン論」の受講学生、52名を充て、この他にもモデル等の担当として、生活デザイン学科の学生が協力を行った。

ファッションショー「GIFUを着るPartⅢ若人がGIFUを斬る」の実施

また今回の第3回「GIFUを着る」もシラバスの内容に合致しており、岐阜市立女子短期大学生活デザイン学科が行っているデザインを通じた地域との交流による教育^{iv}として、生活デザイン学科の協力のもと推進することとなった。

Ⅲ 計画・準備・実施

今回の第3回「GIFUを着る」を実施するにあたって、以下のような手順で実施した。

1 計画

今回の第3回「GIFUを着る」の実施については、企画段階で会場、日程、協力は、過去2回の実施の経験から、以下のように、ほぼ確定していた。

決定事項

開催日：平成16年7月7日（日）
 時間：13:30～14:00（13:00開場）
 15:30～16:00（15:00開場）
 場所：JR岐阜駅アクティブG2F
 TAKUMI ミュージアム
 主催：岐阜市立女子短期大学 岐阜県
 企画・運営：岐阜市立女子短期大学生活デザイン学科学生
 [総合プロデュース]伊藤陽子
 協力：岐阜婦人子供服工業組合、アクティブG、財団法人岐阜県産業文化振興事業団、ORIBEファッションアカデミー・スタイリストスクール、ベルフォートアカデミー オブ ビューティ
 この開催日はアクティブGにとっては開館4周年記念にあたり、オリベプラザも1周年ということで、種々のイベントが行われるため、早くから（GIFUを着る2nd 終了時）日時、場所、を岐阜県、アクティブG、オリベコンソーシアムと相談をして決定していた。

また過去2回の開催実績を見て、ファッション産業連合会総会の席上で、「わが社にはこういう商品もあります。是非使ってください」と、参加を申し出る地元の企業が出てくるなど、着々と地域に根付いてきている実感があつた。

この様に、「GIFUを着る」への参加企業が増えることは、学生にとっても、借り受け先の店の数が広がり、商品の種類も豊富になるため歓迎すべき事である。また、企業に対しても1社あたりの貸し出し点数を減らせるという観点から、1社の負担が減るため、借り受けがやりやすくなるといった利点もあった。

しかし現在の繊維業界は非常に厳しく、新商品開発や販売に忙しく、会社経営も変革の状況にある。「GIFUを着る」の企画

の意義に理解を示しつつも、今回は参加できないが頑張ってくださいと、応援してくれる企業もあった。デザインを通じた地域との交流という点においても、「GIFUを着る」は3年目を迎えて、地域に定着してきたと言えるだろう。

2 準備・実施

以上のように計画をたてた後、実際のファッションショーの開催に向けて、以下のように準備を進めた。

1) ファッションショーのテーマの決定

授業の中で今回のファッションショーのタイトルを「GIFUを着る PartⅢ 若人がGIFUを斬る」と決定した。ファッションショー全体を通してのタイトルは「GIFUを着る」と予め決定しているため、第3回目のサブタイトルを学生同士で話し合っており、今回のサブタイトルを、一番意見の多かった「若人が岐阜を斬る」とした。

2) 学生行動表の決定

今回の「GIFUを着る」はマーケティング演習の授業の一環として行ったため、学生に授業時間を中心に、企画に参加できる時を、表を作らさせ、自分自身のスケジュールと全体のスケジュールを理解させる。また今回のファッションショーの協賛

	訪問・貸出日	名前（責任者はアンダーライン）	返却
岩田商店	6/18 11:00～	高崎、山本、飢、加藤（鮎）、榎田	
株柏屋商事	呉服⇒6/17 16:00～ 洋服⇒6/18	遠田、高崎、山本、飢、加藤（鮎）、榎田	
株ガゼール	6/21～6/22 14:30	神山、加藤（美）、石堂、若山、高崎	7/12
株マツバラ	6/22 授業後	松葉、宮下、近藤亜、近藤美、伊藤、妻木、岡田	
株カワボウ繊維	6/18 13:30	池村、伊藤、近藤亜、田中、荻須、山中、神山	
株北川商店	6/17 16:30	遠田	7/12
株サンラリーグラー ブ マディー	6/25 10:30	近藤亜、川瀬、森口、小島、中野、杉原、水谷、妻木、石丸、岩村、伊藤	7/12
株ヒロタ	6/17 13:00	林、遠田、前田、山下、足立	7/12
株松久	6/17 15:00	市川、妻木、渡辺、松葉、遠田、岡田	
株美濃屋 ハイチビーチ	6/18 10:30～12:00	山口、林、山下、市川、前田、近藤美、小島、水谷、川瀬	
株 ラブリークィーン	6/18 9:30～10:30	渡辺、伊藤、近藤亜、鶴田、松葉、岡田、黒瀬、遠田	

企業と、企業へ商品借り受けのための訪問日時が決定した後、学生全員で自分が担当する企業を決定し、表にした。（表.1）

表1 企業訪問一覧表

3) 学生による企業の訪問

予め話し合いで決められた岐阜市内における、ファッション産業関係の企業を学生が訪問し、商品の借り受けを行った。

(図. 1) (図. 2)



図. 1 M社訪問



図. 2 L社訪問

4) 借り受け商品の管理

借り受けした商品を企業毎に管理する。またその際には借り受けした商品をデジカメで記録し、ノートにまとめ、台帳とし、コーディネートをする際、商品の返却の際の参考・資料とする。



図. 3 商品管理

5) ファッションショーの企画・立案

借り受けた商品を整理し、台帳を作成するのと並行して、開催するファッションショーの企画をたてる。また企画を立案する際には、授業の一環としてファッションショーを行っているという性格上、参加学生の全員が役割につけるような企画にするよう心がけた。(表. 2)

衣装管理	林早野香, 杉原ちえ, 田中由香, 神山あやか, 水谷和美 宮下理恵, 山口愛子, 山下鞠子
コーディネート	伊藤ちさと, 加藤美沙, 森口沙千子, 若山衣理子, 石堂聖奈 渡邊麻里子, 岡田奈緒美, 松葉礼, 川瀬なつみ, 近藤亜季, 鶴田真央, 林早野香, 小島あき
演出	荻須麻希, 高崎友紀, 山本亜季, 剣聖奈, 遠田英里, 足立裕美
音響, 映像, 照明	前田由起, 足立裕美, 近藤美紗姫, 加藤結奈, 池村香世子
葉書, ポスター, パンフレット, プログラム, 台本	市川真由美, 妻木祐子, 黒瀬空見, 岩村衣理, 中山遥菜 岩田今日子, 石丸美奈

表2 学生の手による役割表

6) ファッションショーに対する教育

今回の「GIFUを着る PartⅢ 若人がGIFUを斬る」では、今までの学生の行うファッションショーから、本格的なファッションショーへの脱却を目的に、実施することにした。

- ① プロのモデルと共演する学生モデル、フィッター等は1年生の協力を受ける。
- ② ファッションショーの企画・実施においてはプロの指導を受ける。
- ③ 学生モデルはウォーキングでプロの指導を受ける。

6つのテーマにそったコーディネートを借り受けた衣装で行い、ショーの組み立てをする。

シーン	I 雨
	II 旅
	III 海
	IV t o w n
	V ノスタルジー
	VI フィナーレ

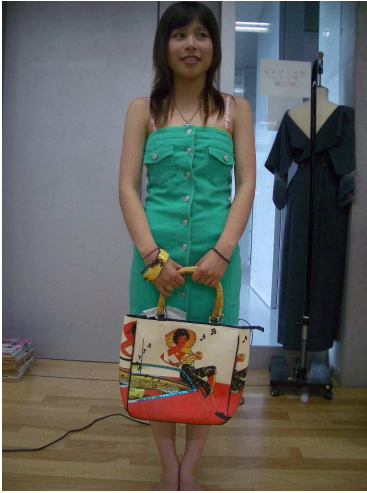


図.4 コーディネート

コーディネートは1年生も各自1セットずつ作成し、デジタルカメラで記録し、プリントアウトする。この写真はファッションショーのシナリオに利用する。

7) 広報活動

メディアを利用して、広く学生たちの活動をアピールする。ラジオ、テレビ、新聞取材を受ける。

8) リハーサル

今回の「GIFUを着る」の目的が、本格的なファッションショーを目指すということもあり、演出、コーディネート、モデルのウォーキング、照明、音響はプロの指導を特に重視し、重点的に受けた。(図.5) (図.6)



図.5 演出家助手による指導



図.6 プロモデルによるウォーキング指導

9) 仕込み

舞台の演出に関わる仕込み、映像の設定(図.7)、音響の仕込み(図.8)、カメラマン(図.9)、アナウンス(図.10)を行った。



図.7 映像の設定



図.8 音響の仕込み



図.9 カメラマン



図.10 アナウンス



図.11 楽屋風景.1 (本番打ち合わせ)



図.12 楽屋風景.2 (本番打ち合わせ)



図.13 楽屋風景.3 (メイク)



図.14 楽屋風景.4 (アクセサリ)

10) 本番

リハーサル、仕込み、直前打ち合わせが終わり、本番となった。会場の受付は参加学生が分担し、受け持った。(図.15)

また今年は昨年度に比べ時間的に余裕もあったおかげで広報もでき、客席にも多くの来場者が見られた。

ファッションショー「GIFUを着るPartⅢ若人がGIFUを斬る」の実施



図. 15 受付風景



図. 19 オープニング



図. 16 客席



図. 20 ファッションショー1



図. 17 舞台袖



図. 21 ファッションショー2



図. 18 映像スタート



図. 22 フィナーレ スタッフ一同全員集合



図. 23 無事終了記念



図. 26 短大にて学生が商品を点検



図. 24 楽屋撤去



図. 27 G社へ返却 企業にて担当者が商品点検



図. 25 満足 スタッフ

- ① ファッションショーの後は、借り受けた商品を整理、点検し、企業へ返却する。

- ② 関係者へのお礼状、ファッションショーの反省・まとめを行う。

3 結果

- ① 学生はアパレル企業への理解を深め、就職を希望する。
 ② 岐阜アパレル企業からは求人、インターンシップの提案がくる。
 ③ プロの指導を受け、本物のファッションショーを行えた事は学生にとって、ファッションにかかわる、いろいろな職種を知ると共に、貴重な体験となった。
 ④ 今回も企業訪問時にレクチャーを受けた、また、短大へ出向いてのレクチャーもあった。



図. 28 I社でのレクチャー



図. 29 M社でのレクチャー



図. 30 K社でのレクチャー

Ⅲ 考察

今回の「GIFUを着る」を通して、感じたことを考察として以下に述べたい。

1 力の配分

「GIFUを着る」は伊藤の受け持つ授業の一環として、毎年行っているが、実施するためには、生活デザイン学科全体の支援体制が重要となってくる。現在、この企画が成功しているのも、その理由として生活デザイン学科の教員はじめ、様々

な人の協力があるからだと思われる。今回の「GIFUを着る」でも、学生はモデルやフィッター、広報係という裏方でも積極的に参加をしてくれ、教員も自分の得意とする専門分野で参加・協力をしてくれた。

例えば、開催を知らせるチラシ、ハガキに関しては、今回の場合、非常に短期間で制作しなければならない事情があり、外部印刷に頼む時間的な余裕がないことから、久保村がデザインを行った。これは今まで学生が主体となりファッションショーを行うという姿勢で行っていたため、全てを学生に任せっきりになってしまったことによる反省の上で判断した。現在も学生の力をどこに結集したら、より効果的な教育となるかを検討している最中である。今後も、毎回ファッションショーを行う上で、ショーの何処にポイントを置くかを検討し、より効果的な企画にしたいと考えている。

しかし、学生の力の配分を考えたとしても、この企画のほとんどは、学生が中心となって行っている訳であり、参加する学生にとっては、非常に時間と労力をつかう活動だと思われる。

だが、この経験が3年も重なっていくと、わずかながらも組織としての経験の積み重ねによって、ファッションショーの企画、演出、実施についての技術が上がってきた様に感じられる。また、企業を訪問しての、商品借受、商品管理、データー管理能力も進歩したため、年々、その負担は小さくなってきているのも事実である。



図. 31 ポスター

2 本格的なショー

今回、ファッションショーを開催するにあたって、当初は企画の段階から企業内デザイナー、プランナーとのミーティングを通して、共同のテーマを作成することから行いたいと考え

ていた。しかし、以上のようなファッションショーの実施を目指したものの、アパレル産業の厳しい状況の中、2ヶ月という短い期間内に活動をまとめることは不可能であった。

その為に今回のファッションショーのポイントを「本格的なファッションショーの実施」に置き、プロの指導を受けながら学生の手による外部に向かって発信できる本物のファッションショーを目指すことにした。しかし、毎回演出を指導してもらっている人が急に海外出張になった為、いなくなってしまう、後半は急遽、演出助手が見るというアクシデントがあった。しかし、その様なアクシデントも細かく伊藤が学生の面倒を見るということで乗り切った。また学生たちもひとつの係りに複数の人があたり 集団で運営をする方法を取ったが、個人の卒業研究を優先した為に係りのリーダーの仕事が他の学生にまわり、結果として何人かがとても忙しい思いをした。しかし、途中で何度もミーティングを行って問題点を話し合うことによって乗り切った。

3 仕事意識の定着

今回、ファッションショーは何事もなく無事終了したが、最後に本番の舞台上で、ある事件が発生した。それは当初の打ち合わせ段階では無かった、ショーの途中でモデルが客席の子供に飴を配るという演出を、打ち合わせもなく急遽、学生が入ってしまったことである。これは学生演出係と飴を配る当人達だけが決めた事で、リハーサルの時にも全く相談が無く、本番で突然に行ったということであった。当日のファッションショーは2回公演であった為、第1回目が終わった途中で意見を言う学生たちの心が乱れショーに悪影響を及ぼすと考え、このことは第2回目のショーが終了する最後まで何も言わずにしていた。しかし、この行為に関しては、伊藤ばかりではなく今まで学生たちのショーを指導してきた演出助手や、コーディネーターたちも知らないことであった為、ファッションショーが乱れてしまい、会場からは疑問の声が上がっていた。この件に関しては、後日授業でビデオを見ながら反省会をした際に、伊藤が、このアクシデントについて注意をした。

今回のファッションショーは学園祭や仲間内のものではなく、外部へ向かって公的に行うファッションショーであった。そのために綿密に計画をたて、行動をシミュレーションしリハーサルも何度もしてきていたはずである。もし学生たちが舞台で行いたいことがあったとしても、それは準備段階で打ち合わせをした上で実施するべきである。それを自分たちの思いつきでしてしまうことは、ファッションショー全体を壊してしまう可能性のある非常に危険なことであることを説明した。全体で行っている仕事を、個人の思いつきで全体に相談無く行うことは無責任な事であり、その個人の責任について学生に話をした。今回のアクシデントに関しては、演出助手やオリベからのコーディネーターは、伊藤自身も知らない学生のしたことと言

うことで納得してくれたが、外部のメンバーと一緒に仕事をしていると考えるのならば、これはどうい許されるものではないだろう。この件に関しては、この演出を提案した一人が悪い訳ではなく、これを行ったり見過ごしてきた全員の考えの甘さであることを、理解させなくてはならなかった。

「GIFUを着る」のファッションショーを実施するということは自分たちのお祭りではなく、産・官・学の連携による1つの責任ある仕事であるということを学生たちが理解することが、学生の行うファッションショーから、本格的なファッションショーへの脱却に一番重要なことなのだろう。

平成17年度の開講科目から、授業の一環として、より充実して学生が「GIFUを着る」を行っていくために、「ファッションデザイン演習Ⅱ（実践）」が授業として加わることになった。今後はより充実して、地域との関わりの中で、このような取組を行っていきたいと考える。

おわりに

今回、「GIFUを着る」のファッションショー開催中に会場で、来場してくれた一般視聴者と、ショーを見に来てくれた学生に対してアンケートを実施した。また伊藤の授業では、実際に参加した学生に対して、今回のファッションショーを通してのレポートを課した。今後は、これらの意見を分析するとともに、参考にして、より良いファッションショーの実施に向けて、取り組んでいきたいと考える。

「GIFUを着る」は今回の主題となった『「GIFUを着るPartⅢ若人がGIFUを斬る」』で、3回を無事に行うことが出来た。今後も、この企画が続く限り参加し、岐阜の地域に於いて、産・官・学の連携を実践していきたいと考える。

今回のファッションショーでは、モデルとして岐阜県の企画で誕生した、モードル[®]に出演を依頼した。またオリベファッションアカデミー、ベルフォート・オブ・ビューティー専門学校に参加・協力も得られ、非常に充実した内容となった。

ファッションショーを実施した時期は、アパレル企業にとって、大変、忙しい時期であるが、それにも関わらず、多くの人々が足を運んでくれた。ここで協力して頂いた全ての方々に感謝とお礼を書きとめたい。

また昨年より、本学と類似した試みとして、東京中央区横山町、馬喰町の繊維問屋街と文化服装学院が連携イベントを行い始めた。私たちの取り組んできたものが、より広い地域に広まって行われることは嬉しいことである。

最後に、今まで開催されたORIBEワールドファッションシリーズの開催実績一覧を以下に示す。このような資料によって「GIFUを着る」の位置付けがより明白になるのではないかと思われる。

ファッションショー「GIFUを着るPartⅢ若人がGIFUを斬る」の実施

第1回	14/7/7	岐阜市立女子短期大学 テーマ 「岐阜を着る」
第2回	14/8/16	グルーフデ・サンク（大垣桜高校TAKU MI工房ｲﾝﾀｰﾅｯｼｮﾝ 生）テーマ 「衣和曲」
第3回	14/10/26	平野学園 大垣文化総合専門学校 テーマ「Flower Fantasy」
第4回	14/11/17	大垣桜高等学校 テーマ 「Stream」
第5回	14/12/1	揖斐高等学校 テーマ 「華恋（かれん）」
第6回	14/12/8	ｺﾛﾑﾋﾞｱ・ﾌｧｯｼｮﾝ・ｶﾚｯｼﾞ テーマ 「ｺﾛﾑﾋﾞｱ・ ﾌｧｯｼｮﾝ・ｶﾚｯｼﾞ 流コラボレーション」
第7回	15/1/25	岐阜三田高等学校 テーマ 「映写幕」
第8回	15/2/16	ﾄﾞﾘｰﾑ・ｶﾞｰﾃﾞﾝ（大垣桜高校の卒業生 ｸﾞﾙｰﾌﾞ）テーマ 「青春」
第9回	15/5/11	ＩＤ（岐阜・名古屋地区のﾌｧｯｼｮﾝ業界 関係者のｸﾞﾙｰﾌﾞ）テーマ 「One clot h has many answers」
第10回	15/7/6	大垣共立銀行 テーマ 「着こなす自由形態」
第11回	15/10/13	大垣桜高等学校 テーマ 「Avenue」
第12回	15/11/29	平野学園 大垣文化総合専門学校 テーマ 「Milkey Christmas」
第13回	15/11/30	ｺﾛﾑﾋﾞｱ・ﾌｧｯｼｮﾝ・ｶﾚｯｼﾞ テーマ「ｺﾛﾑﾋﾞｱ流セレブレーション 」
第14回	16/1/31	岐阜三田高等学校 テーマ 「新生」
第15回	16/2/22	a peach cherry stone（大垣桜高校の 卒業生ｸﾞﾙｰﾌﾞ）テーマ 「風景 LAND SCAPES」
第16回	16/2/29	岐阜女子短期大学 テーマ 「岐阜を着る2nd 四季」
第17回	16/7/11	岐阜市立女子短期大学 テーマ「岐阜を着るpartⅢ」
第18回	16/9/26	a peach cherry（大垣桜高校卒業生 ｸﾞﾙｰﾌﾞ）テーマ 「identity」
第19回	16/10/23	大垣桜高等学校 テーマ 「brilliance」

- i 伊藤陽子，平真由美，久保村里正，『岐阜地域に於けるアパレル産業の活性化と大学の地域貢献 ファッションショー「GIFUを着る」の実施を通して』，岐阜市立女子短期大学研究紀要第52輯、岐阜市立女子短期大学，2003，p. 185-p. 202
- ii 久保村里正，『デザインを通じた地域との交流による教育』，「岐阜市立女子短期大学研究紀要第53輯」、岐阜市立女子短期大学、岐阜市立女子短期大学，2004，p. 179-p. 188
- iii 前掲書1)、p.
- iv 前掲書2)、p.
- v モーデルはモードモデル、アイドルを掛け合わせたオリジナルな造語であり、モデルとアイドルの両方の側面を持つタレントのことである。岐阜県とホリプロの共同企画として誕生した。（提出期日 平成16年11月26日）